



代表取締役
藤井卓氏

「またタックと一緒に仕事がしたい」と言ってもらえるような会社であり続けたいと語る。地域の学校の特色を把握しており、校風にマッチした企画を立案したり、出演者を招いたりできることが身上だと自信を見せる。



同社の倉庫にある多彩な機材。機材をイベント会場まで運搬するため、同社ではトラックも保有している。

顧客はほとんどいなかった。同氏は、コンサートホールに置かれていたパンフレットに記載されている主催者にアプローチしたり、ライブ後のバンドの楽屋に顔を出したりするなど、地道な営業活動を続けた。

「5000円でもいいから仕事をさせてもらいたい」といった飛び込み営業も行いました。その取り組みが実を結び、地域のイベントをはじめ徐々に仕事をいただけようになり、プロのバンドの専属音響オペレーターも務めるようになりました」

その後、楽器の伴奏を伴わない合唱曲である「アカペラ」の人気グループにおける音響を担当したことが、同社がさらなる飛躍を遂げる契機となった。アカペラのハーモニーの音量や音色などを調整するミックス作業には、高度な音響技術が求められる。この仕事により、同社の技術力の高さが改めて証明されることになったのだ。

「アカペラにスポットを当てた人気テレビ番組から誕生したグループで、彼らが神戸を中心に活動していたこともあり、その後、関西で誕生した多くのアカペラグループの音響を当社が担当することになりました」

着実に事業を伸ばさせていった



2017年から開催されている、「障がいのある人とない人が一緒につくり上げる大規模な音楽コンサート」と銘打たれた「まほろば あいのわ コンサート」の様子。同社では奈良県から委託され、ライブ配信を含め、企画から運営管理までを総合的に手掛けている。同コンサートの企画・運営を通じて、動線上にケーブルを配置しないなど、障がいの出演者・観客に対する幅広い配慮が行えるという点も、同社の強みのひとつとなっている。

同社だったが、大きな困難に直面することになる。新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの中止によって、仕事がほぼゼロになるといふ事態に追い込まれたのだ。

■ コロナ禍で挑戦したライブ配信事業で飛躍

思いもよらない逆境に見舞われた同氏は、活路を切り拓くために新たな事業に挑戦することを決意する。それが、イベントのライブ配信である。

「スタッフ全員でミーティングを重ねて、打開策を練りました。そのなかで、観客が集まることのできなくても、ネットでその様子を配信できるなら、イベントが成立するのではないかと考えたのです。当時は、現在のようにイベントのライブ配信が行われる例はほとんどなかったため、新たな可能性があると確信しました」

同社では、映像に関するノウハウは持ち合わせていなかったため、仕事を通じて知己を得ていたカメラマンから技術を習得し、配信についても研究を行い、試行錯誤を重ねた。

「ホールや学校など、ネット環境がない場所に回線を引くための

音響専門のプロ集団から、総合イベント企業へ躍進。
イベントのライブ配信事業で、多くの人に感動を。

奈良県大和郡山口市に本社を置き、イベントの企画から舞台技術業務全般、運営までを一貫して行う株式会社タック。音響や映像に関する技術力はもちろん、2024年「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の公募型プロポーザルにおいて「最優秀提案者」に選定されるなど、その企画力も高い評価を受けている。同社が現在の発展を遂げる契機となったのは、コロナ禍で挑戦したイベントのライブ配信事業だった。

株式会社 タック
【奈良県】
音響・照明・映像機材のレンタル・運用、オペレーターの派遣等
<http://www.tacitd.net/>

音響に関する高い技術力で
着実に事業を拡大

イベント関連の音響・映像システムを提供する他、イベントの企画から運営までをワンストップで手掛けている株式会社タック。同社は、全国で開催される大規模なコンサートに加え、地元のイベントや学校行事をプロデュース・運営するなど、地域密着型の事業を展開し、他社の追随を許さない存在を示している。代表取締役・藤井卓氏は、「音楽関連のイベントを自分の力でつくりあげたい」との想いを形にすべく、1987年に同社を創業した。

「子どもの頃から音楽が好きで、スピーカーを自作するほどでした。音響について学んでいた専門学校を卒業した20歳の夏、あるアーティストのライブでその音響のすばらしさに感動し、音響システムを担当していた会社に直談判して採用されたことが、この業界に入る契機となりました。その後、1年間の会社勤務を経験し、昇進の打診を受けた際に、ここで決断しなければ自分の夢を実現できないと考え、独立を決意したのです」

自分の夢に向かって歩みはじめた同氏だったが、当初、知名度のない同社に音響の仕事依頼する

「主催者の想いを大切に、観客を含めた全員に最高だったと思ってもらえるステージを創造したい」と少年のような笑顔を見せる同氏。業務が細分化された現在のイベント業界において、企画から参加アーティストのアテンドを含めた運営まで、すべてをワンストップで請け負える同社だからこそ、それが可能になると胸を張る。

「コロナ禍というピンチを逆手にとりて新たな事業に挑戦し、その強みを活かして地域に貢献している同社。その最高のステージに、今日も多くの人が感動している。」

「従来からの信頼関係があったからこそ、実現できたのだと思います。中止や延期を余儀なくされていた行事やイベントを復活させることができ、大勢の方に感動してもらえて、大きな手応えを感じました。有観客でのイベント開催が可能になった現在も、ライブ配信に対するニーズは衰えていません。この事業で培った映像技術を活かし、当社が手掛けたイベントを収録したDVDを製作・販売する新たな事業も展開しています」

経営のヒント

ライブ配信事業に挑戦し
コロナ禍をチャンスに転じる

コロナ禍で仕事が激減したことを受け、ライブ配信という新たな事業に取り組み、イベントや学校行事の復活を実現。ピンチをチャンスに転じる挑戦でこそ、事業の発展と地域社会への貢献が可能になる。



同社の外観。